

大峰(十津川水系)神童子谷／南紀(熊野川水系) 柵谷



【日時】 2019/8/25 (日) 神童子谷 8/26 (月) 柵谷

【参加者】 CL 平野 SL 岸野 上茂 小原 (記録)

【行程】

- ・ 8/25 (日) 神童子谷 神童子林道終点手前 P9 : 10→入渓点 9 : 30→へつついさん 10 : 00
→釜滝 12 : 20→釜滝より沢下降 12 : 50→林道終点 P15 : 10
- ・ 8/26 (月) 柵谷 柵の平橋 P11 : 50→ヤケベ岩 12 : 55→300m ナメ終了点の巨岩 13 : 08
→沢下降→柵の平橋 14 : 25

当初予定していた上ノ廊下は残念ながら中止。

小屋へ連絡すると、今年は雨も多く入渓前1週間～10日は安定した天候でないと水は多く、歩ける場所も深く掘り下げられてしまっていたりと厳しい状況であり、遡行日を伝えたと小屋でも行かないように案内しています。1本横の東谷沢も同様です。との事で、あっさりあきらめもついた。

天候不良に備えて転進先として事前準備していた、北海道、東北、四国方面も雨雨雨で全滅。

全国的に天候不良の中、近畿のみ7日間中たった2日間だけ天候が安定、大峰ブルーの代表格？神童子谷と前鬼川2本の沢へ急遽転進する事となった。前半は雨であったがせっかく休みも取ったので予定通りの22日前夜発、23日は伊勢神宮参拝、24日は3年前に行っ

た愛知川近辺の入渓点等々の偵察しながら滋賀をぶらりドライブの旅を楽しんだ。

◆8/25（日）晴 神童子谷

泊りでも行ける沢なのだが、明日もう1本あるのでメインの釜滝までの往復で日帰り。神童子林道通行止め前に数台駐車できる、釣師の車が1台のみ停車で沢屋はいない様子。道なりに進むとすぐに橋があり、橋下に踏み後がある、間もなく出てくるしっかりした階段を降りると入渓ポイント。白っぽいミニナメ床がチラホラ既にブルーが美しい、水の透明度も高く期待が膨らむ。横に作業道もはしっているのだが、沢中を遡行する。水は冷ためだ。

20分程で最初のポイント（「へっついさん」←かまどという意味らしい）ミニゴルジュとなる。泳いでいる記録もあるが、雨で砂利が埋まったのか胸下程の水位で快適に通過。その後は小泳ぎしながら第2ポイント「赤鍋ノ滝」へ到着。左岸の支沢が流れ込む見た目ツルツルの斜め45度をトラバースするのだが、本日は水量が多いようで滝下はドウドウと白波だっている。落ちたら滝つぼに巻かれる可能性もあり、くわばらくわばらと言う事でロープを出し抜ける。そのすぐ上の釜もちよい泳ぎ+ちよい登りだったが、失敗し赤鍋ノ滝下の白波にのまれたら、恐ろしや〜との事でロープを出し通過。なかなか雰囲気のあるツルツル地帯であった。滝を上がった上には立派な石垣があり、製材所跡らしいがなんでこんな奥地に、謎ですね。その後は長く続く平凡な河原歩き、たまに泳ぎもあったが、飽きる。途中ベテラン全身カラフル釣り師さんに遭遇、釣りながらのんびりお泊り釣行らしい。釜滝で帰る旨と、なるべく沢に入らぬようそっと行きます。と告げさらに河原を延々と、そして遂に釜滝へ到着。「わわーっ」と声が出る期待以上の美しさだ。行きたい沢は数あれど、釜を見たくて来てみたかった沢はここ1つ。

この時期は日のある12時30分前後でないと釜に日が入らずこの美しい様は見られない、ベストタイミングで到着できた。水の色は少しの時間の中でもヒスイ、エメラルド、アクアマリン、トルマリンと日の差し込み具合によって変化する、沢の宝石箱や〜って感じ。30分程いたが後半になるほど凄みを増す釜の姿に、休憩も忘れ写真や動画撮影に没頭。水中動画撮影をすると釜の中はお魚天国で竿を持ってこなかったことを後悔した。帰りは余韻を楽しみながら、往路を下降、赤鍋ノ滝はあの水量を下降したくないので、左岸にあった高巻き道で戻り、沢も壊れかけた作業道を使いながら車まで戻った。遠いけどまた訪れたい、今度は釣りをしながら泊りでね。



立派な階段



入渓点



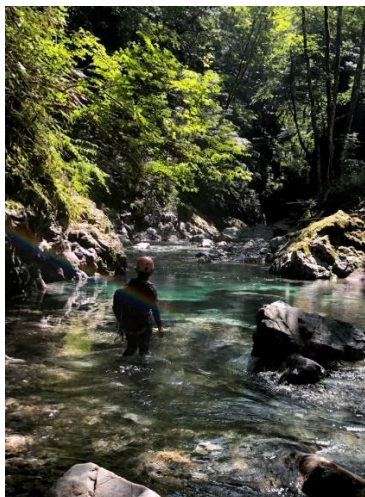
白いナメ床



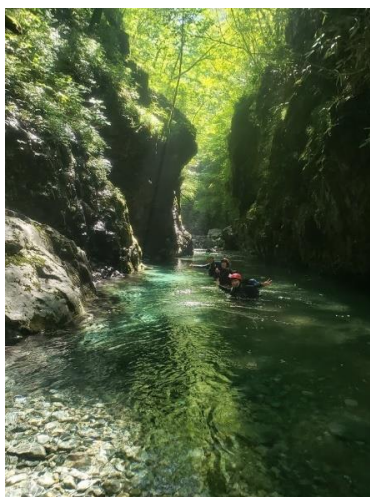
作業道



穏やか癒される



木漏れ日と虹



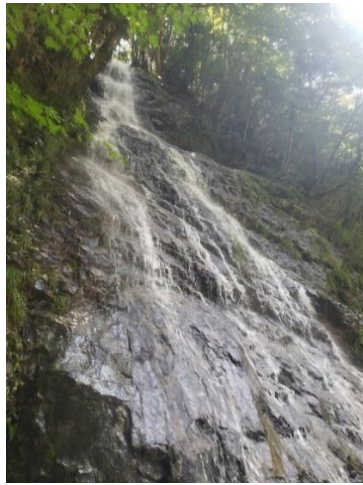
へっついさん



青みが増してくる



赤鍋ノ滝トラバース
(4m滝)



トラバースした支沢



釜を泳いで取り付く



期待以上の美しい釜



お魚天国

◆8/26(月)晴時々曇り 桐谷

前鬼川下流の池原ダム隣接のキャンプ場泊、沢までは近くのんびりの8時前に出発する。まもなく前鬼林道に入ろうとしたところ、9月上旬まで通行止めの看板に阻まれる、急遽の転進で、林道情報までは調べていなかったが、まさかの通行止めに落胆する。沢までは歩けるような距離でもなさそうでしたので、急いで沢本、他ネットワーク等で情報収集。時間もなくて急でしたので短くて簡単な沢。CL知人の関西在住の方より、南紀方面の簡単ナメ癒し溪「桐谷」の情報をいただく。ちょうど持参の沢本にも載っていたので、状況と沢本ガイドの写メを山行管理者へ、了承を頂き急いで南紀方面へ向かう。道中、熊野大花火大会があることを知る、午前中というのにすでに席取り客がちらほら帰りは大渋

滞になりそうである。

入渓ポイントの木の平橋を出発できたのが11:50、時間を見ながら良い辺りで切り上げましょうと出発する。序盤は、こじんまりとした入渓点、まもなく渋めな全長50m/H15m ナメ滝が現れる傾斜厳しそうに見えるが快適に遡上できる。釜+ナメたまにゴーロが続く。本日はライジャケなしだったので、泳ぎが沈みがちだったが水は冷たくなくちょうどよい。

1時間ほどで突然別の谷に入ったかのような、高さ80m程の谷ハイライト圧巻のヤケベ峠。かかる滝は、6m斜爆はフリクションを効かせて登れる。この上は全長300mナメ登りきるころ、ナメ床に鎮座する大岩でまだ時間はあったが、おなかいっぱいとなり、フィニッシュとした。帰りはナメだらけなので、ウォータースライダー下山。たまに凸部分もあるので注意しながら。

帰りは花火大会場所を迂回し三重方面へ向かい途中刺身を買い込み帰路中で打ち上げし、翌朝(27日)みんな大好き?刈谷PAでお約束のあれやこれやお土産を買いたり、帰路へとついた。

* 走行距離1800キロ強、千葉から滋賀、三重、和歌山とロングドライブ、ほぼ運転してくれたSL お疲れ様&ありがとうございました。今シーズン上ノ廊下に向け事前訓練も含め皆様大変

お世話になりました。 また行けるチャンスが巡ってきたらよろしくお願いします。



入渓点



全長50mナメ



快適に登れる



積極的に釜につかる



ナメ以外の滝は少なめ



ライジャケないと沈みがち



ヤケベ岩



大岩と手乗りUさん



スライダー下山